

# 祈っておられたイエス

マルコ 1 : 35 - 39



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年2月7日

顕現後第5主日

上野聖ヨハネ教会にて

自分の生涯を振り返ってみたときに、ある聖書の箇所があるとき自分の中に深く印象を残した、という経験を皆さまはお持ちでしょうか。

今読まれた福音書の後半、マルコ福音書第 1 章 35 節以下は、わたしにとってはそのような箇所のひとつです。

**「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。」マルコ 1:35**

このイエスさまがとても慕わしい。今から 46 年前、1975 年のことを思い出します。

46 年前の 2 月、わたしは大津聖マリア教会の信徒でした。すでに聖職候補生の認可を受けていたので、正式にはわたしの籍は教会ではなく京都教区に移っていたのですが。それはともかく、京都伝道区で大斎集会というのがあって、毎週京都伝道区の教会をめぐるって礼拝をささげました。まもなく神学校に行くことが決まっていたわたしも、その大斎集会でお話しさせていただくことになりました。そのときにこの箇所を中心にお話をしたのです。聞いた人の感想——内容は良かった、しかし長かった。それで今日は長くならないように気をつけます。

イエスさまに呼ばれて弟子となってまだ日の浅いシモン・ペテロとその兄弟アンデレ、そしてヤコブとヨハネ。彼らはカフ

アルナウムの町の、シモンの家に泊まりました。朝早くまだ暗いうちに、シモンがふと目を覚ますと、傍らに休んでおられるはずのイエスの姿がない。じっと待っていたのですが、戻ってこられる気配がない。だんだん気になってきて起き上がりました。まだ薄暗い家の中を捜します。しかし姿はない。表に出て、家の周りを捜しても見つからない。イエスさまはどこに行かれたのか。まさか、自分たちを捨ててどこかに行ってしまうのではないか。そんなことがあるはずはないと思うものの、いよいよ心配が募ってきて、他の弟子たちを起こしました。4人で外に出てあちらこちらイエスさまを捜します。どうされたのか。どこへ行かれたのか。

捜し回って、夜が明けようとする頃、ようやくシモンはイエスを見つけました。イエスは人里離れた所で祈っておられた。こう書いてあります。

「シモンとその仲間はイエスの後を追い、見つけると、『みんなが捜しています』と言った。」1:36-37

どんなに心配してあなたを捜したか、という思いが、この言葉にこめられている気がします。

ここのギリシア語原文は「みんながあなたを捜しています」となっています。イエスさま、あなたを捜しているのです。あなたがわたしたちには必要なのです——わたしたちにとっても

そうではないでしょうか。

イエスは、弟子たちがまだ眠っていたとき、そして起きて捜していたとき、何をしておられたのか。

「イエスは……人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。」 マルコ 1:35

祈っておられたのです。

何を祈っておられたのでしょうか。書かれてはいないのですが、想像してみます。

第1に、ご自分の使命のために、これからの働きのために祈っておられた。神さまから託された神の国を広める使命。傷ついた人々を癒し、弱らされた人々を力づけること。この世界に愛と平和と正義を実現していくこと。これからの宣教の働きのために祈っておられたに違いありません。

第2に——これは第1と切り離せないのですが——ご自分のために祈られた。これからの働きが順調にいくとはかぎりません。ご自分を必要とし、慕い求めてくる人たちもいれば、反抗し、怒りと憎しみを向けてくる人たちも生じて来るに違いありません。さまざまな困難、妨害、また迫害をすでにイエスは覚悟しておられました。そのような中で使命を果たしていくために、

神さまと深くつながっていなくてはならない。神さまから、力と励ましと導きをいただかなければならない。イエスはご自分のために祈られたに違いありません。

第3に、イエスはあの弟子たちのために祈っておられた。自分が招き、自分を信じてついてきてくれた弟子たちのことを、どうしてイエスは軽んじられることがあるのでしょうか。

イエスはこの弟子たちを教育し、ご自分の協力者となって成長していくように訓練されるのです。弟子たちはしばしば失敗をし、イエスさまのことを理解せず、肝心の場面で逃げてしまうようなこともあるかもしれない。しかしそれでも、イエスはこの弟子たちを愛し、最後まで愛しとおされるのです。

ところで、イエスが祈られるのは、最初の弟子たちのためだけではありません。2000年後の弟子であるわたしたちのためにイエスは祈ってくださいます。強がってみせることがあるけれど弱いわたしたち、迷うわたしたち、失敗するわたしたち、逃げたり裏切ることもあるかもしれないわたしたちを、それでもイエスは愛して愛しとおしてくださるのです。

あるいはわたしたちにもあるかもしれません。イエスはわたしたちを忘れてしまわれたのか。わたしを見捨ててしまわれた

のか。あのときのシモン・ペテロのようにそう思ってしまうことがあるかもしれません。

しかし、およそ3年後、イエスは最後の食卓で言われました。

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかしわたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。」

ルカ 22:31-32

あのシモンのために祈られたように、イエスはわたしたちのために祈っていてくださるのです。

このイエスさまがわたしたちにも呼びかけられます。

「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来た。」マルコ 1:38

「わたしは宣教する。」

神の国を広めるために、良いことを実現するために、イエスは祈りつつ、わたしたちを連れて行かれます。わたしたちもイエスとともに祈り、イエスとともに働きます。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたがわたしたちのために祈っていてくださることを教えてください。あなたとともに祈り働くように、

わたしたちに希望をかけていてくださることを教えてください。  
あなたがわたしたちを、あなたの弟子として守り、育ててください。アーメン